

「特急政策の見直し」と「平成 19 年度の車両新造計画」について

～平成 20 年度までに「ミュースカイ」を除く快速特急・特急を「一部特別車」編成に統一～

名古屋鉄道は、先に定めた新 3 ヶ年経営計画(平成 18 年度～20 年度)で、「鉄道サービスの向上」を目標とし、その取り組みの 1 つとして「利用しやすい特急列車」を掲げています。このたび、その一環として、実質的なフリークエンシーの向上を図るため、ミュースカイを除く快速特急および特急については、平成 20 年度までに全て「一部特別車」による運行とします。

現在、快速特急・特急の車両編成には、特別車両券「ミューチケット」(350 円)が必要な特別車で全車両を組成した「全車特別車」と、「ミューチケット」が不要な一般車を併結した「一部特別車」の 2 種類があり、「一部特別車」は、名古屋本線および常滑・空港線などで運行をしています。今回、その運行範囲を拡大することを決め、平成 20 年度までに空港アクセス特急「ミュースカイ」を除く「全車特別車」を、全て「一部特別車」編成に統一します。

その第 1 段階として、平成 19 年度の車両新造計画において、現在、「一部特別車」として運行している 2200 系・30 両を新造することを決め、来年夏に予定しているダイヤ改正にあわせ投入することで、犬山方面～半田方面間で運行している「全車特別車」特急のうち、およそ半分を「一部特別車」特急による運行に変更します。あわせて、3150 系など通勤型車両 26 両を新造します。これに伴う平成 19 年度の車両の新造費用は、約 71 億円の見込みです。

また、平成 20 年度以降においても、「一部特別車」特急車両の新造や瀬戸線新型車両の導入、通勤型車両の新造によって旧型車両の更新などを順次実施していきます。なお、「一部特別車」特急の運行範囲拡大に伴い、「全車特別車」1000 系パノラマスーパーは順次、廃車します。

上記施策にともない、平成 19 年度から平成 22 年度までの 4 年間で、計 196 両(新造 186 両・改造 10 両)の車両新造・改造を実施する予定です。投資総額は約 231 億円となる見込みです。

詳細については、下記のとおりです。

1 平成 20 年度までに快速特急・特急を「一部特別車」に統一（「ミュースカイ」を除く）

空港アクセス特急「ミュースカイ」を除く「全車特別車」は、平成 20 年度までに、全て特別車と一般車を併結した「一部特別車」編成に統一します。

まず、その第 1 段階として、平成 19 年夏に予定しているダイヤ改正にあわせ、新造車両を投入することで、犬山方面～半田方面間の「全車特別車」特急のうち、およそ半分を「一部特別車」特急で運行します。引き続き、平成 20 年度にも新造車両を投入し、同年度中には中部国際空港アクセス特急「ミュースカイ」を除く快速特急・特急については、全て「一部特別車」で運行します。

2 平成 19 年度の車両新造計画について

特急政策の変更に伴い、平成 19 年度において、下記 56 両の車両新造を行います。総投資額は約 71 億円の見込です。

- ① 「一部特別車」特急車両 2200 系 5 編成 30 両の新造
- ② 3150 系など通勤型車両 26 両の新造

また、今後の投資環境の変化など不確定要素もありますが、平成 20 年度～同 22 年度の 3 年間でさらに 140 両の車両新造・改造を実施し、平成 19 年度からの 4 年間では 196 両、総投資額は約 231 億円となる見込です。

平成 20 年度以降の整備計画の主な内容は、下記のとおりです。

① 「一部特別車」特急車両の新造・整備

特急政策の変更に伴い、平成 20 年度でも 2200 系と同様の「一般車」車両 16 両を新造し、「特別車」には既存の「全車特別車」車両 1600 系 8 両（残る 4 両は廃車）を改造して組み合わせることで、「一部特別車」特急車両を新たに 24 両（6 両組成×4 編成）を整備する予定です。なお、「全車特別車」車両である 1000 系パノラマスーパー 60 両（4 両組成×15 編成）は、平成 21 年度までに廃車する予定です。

② 通勤型車両の新造

(1) 本線系統への新造車両の投入

本線系統において、平成 20 年度から 22 年度の間には 3150 系など通勤型車両を 74 両新造し、旧型車両の更新を図ります。

(2) 瀬戸線への新造車両の投入

また、瀬戸線においても乗入れ 30 周年に当たる平成 20 年度から 22 年度の間には、40 両を更新する予定です。現在、瀬戸線には 72 両（4 両組成×18 編成）が在籍していますが、残る車両についても平成 23 年度以降、順次更新する予定です。

③ 7000系(パノラマカー)など旧型車両の廃車

新造車両の投入に伴い、7000系や5300系などの旧型車両は順次廃車します。7000系パノラマカー84両(4両組成×9編成、6両組成×8編成)については、平成21年度までに廃車する予定です。

	19年度	20年度～22年度	合計(19～22年度)	(参考)18年度
新造車両数	56両	130両	186両	18両
改造車両数	0両	10両	10両	0両
合計	56両	140両	196両	18両
投資額(百万円)	約7,100	約16,000	約23,100	3,690

なお、以上の計画遂行に伴い、車いすスペースの設置など車両におけるバリアフリー化や運転電力削減などエネルギー効率の向上を図っていきます。

(参考:運転電力削減目標…平成20年度の電車エネルギー原単位(電車1両が1km走行するのに要する電力量)を平成15年度比2.5%減(2.11kWh/Car-km)とする計画。

*平成17年度実績:2.121kWh/Car-km)

以上